



# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2021/05/21 改訂日: 2025/03/10 バージョン: 3.0

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: iCLEAN - Interior Cleaner
製品コード	: 115555731
製品グループ	: 取引製品

### 会社情報

#### 製造業者

Brands Alliance s.r.o.

831 06

BratislavaPri Šajbách 1

T +421244871700

[msds@brandsalliance.eu](mailto:msds@brandsalliance.eu) - [www.brandsalliance.eu](http://www.brandsalliance.eu)

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	区分 1
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入 : 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入 : 蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入 : 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

環境に対する有害性	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期 (急性)	区分 3
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

## ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

: 警告

危険有害性 (GHS JP)

: 金属腐食のおそれ (H290)

: 水生生物に有害 (H402)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 他の容器に移し替えないこと。(P234)

: 環境への放出を避けること。(P273)

応急措置

: 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。(P390)

廃棄

: 内容物／容器を地方、地域、国内の法令や国際的法令に順守した危険廃棄物又は特別廃棄物の収集場所廃棄すること。(P501)

処理時の追加危険有害性

: 通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

: 混合物

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
ラウレス-6 カルボン酸ナトリウム	1.788	C <sub>2</sub> H <sub>3</sub> NaO <sub>2</sub> (OC <sub>2</sub> H <sub>4</sub> )nC <sub>12</sub> H <sub>25</sub> O	-	-	33939-64-9
ラウレス硫酸ナトリウム	0.325	-	-	-	68891-38-3
アルコール、C9-11、エトキシリ化	0.304	-	-	-	68439-46-3
コカミドプロピルベタイン	0.114	CxHyOz. N	-	-	61789-40-0
2-(2-ブキシエトキシ)エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル	0.33	C <sub>8</sub> H <sub>18</sub> O <sub>3</sub>	(2)-422,(7)-97	2-(8)-99,2-(8)-317	112-34-5
リモネン	0.22	C <sub>10</sub> H <sub>16</sub>	(3)-2245	3-(4)-187,3-(4)-202,3-(4)-222	5989-27-5
イソプロピルアルコール臭	0.01133	C <sub>3</sub> H <sub>8</sub> O	(2)-207	2-(8)-319	67-63-0
ブチルヒドロキシトルエン	0.0126	C <sub>15</sub> H <sub>24</sub> O	(3)-540,(9)-1805	既存化学物質	128-37-0

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

## 4. 応急措置

### 応急措置

- |           |                                 |
|-----------|---------------------------------|
| 応急措置 一般   | : 気分が悪い場合は医師の診察を受ける。            |
| 吸入した場合    | : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 |
| 皮膚に付着した場合 | : 皮膚は多量の水で洗浄する。                 |
| 眼に入った場合   | : 予防措置として眼を水ですすぐ。               |
| 飲み込んだ場合   | : 気分が悪いときは医師に連絡すること。            |

### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 症状/損傷 吸入した場合    | : ヒト及び動物に対する毒性データは知見されていないが、本製品は吸入危険有害性と見なされる。 |
| 症状/損傷 皮膚に付着した場合 | : 通常の条件下では特に無し。                                |
| 症状/損傷 眼に入った場合   | : 通常の条件下では特に無し。                                |
| 症状/損傷 飲み込んだ場合   | : 通常の条件下では特に無し。                                |

### 医師に対する特別な注意事項

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| その他の医学的アドバイスまたは治療 | : 対症的に治療すること。 |
|-------------------|---------------|

## 5. 火災時の措置

- |                |  |
|----------------|--|
| 適切な消火剤         | : 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素                                       |
| 使ってはならない消火剤    | : 強い水流は使用しない。  |
| 火災危険性          | : 火災の危険は一切ない。  |
| 爆発の危険          | : 直接に爆発する危険は全くない。  |
| 火災時の危険有害性分解生成物 | : 有毒な煙を放出する可能性がある。   |
| 消火方法           | : 安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。<br>呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。 |
| 消火時の保護具        | : 適切な保護具を着用して作業する。<br>自給式呼吸器。<br>完全防護服。                        |

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- |       |  |
|-------|--|
| 一般的措置 | : 安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。<br>本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。<br>物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。 |
|-------|--|

### 非緊急対応者

- |      |                     |
|------|---------------------|
| 保護具  | : 推奨される個人用保護具を着用する。 |
| 応急処置 | : 漏出エリアを換気する。       |

### 緊急対応者

- |      |   |
|------|---|
| 保護具  | : 適切な保護具を着用して作業する。<br>詳細については、第8項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。 |
| 応急処置 | : 不要な職員を退避させる。<br>安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。          |

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

## 環境に対する注意事項

環境に対する注意事項

: 環境への放出を避けること。

## 封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法

: 漏出物を回収すること。

流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。

可能であればリスクなく漏出をせき止める。

浄化方法

: 吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。

その他の情報

: 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策

: データなし

安全取扱注意事項

: 作業所の十分な換気を確保する。

個人用保護具を着用する。

接触回避

: データなし

衛生対策

: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

製品取扱い後には必ず手を洗う。

処理時の追加危険有害性

: 通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

### 保管

安全な保管条件

: 耐腐食性／耐腐食性内張りのある耐腐食性容器に保管すること。

他の容器に移し替えないこと。

安全な容器包装材料

: データなし

技術的対策

: 涼しくて、よく換気された場所で、熱から離して保存する。

混触禁止物質

: 金属類。

容器包装材料

: 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)					
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)					
現地名	イソプロピルアルコール # Isopropyl alcohol				
許容濃度 上限	980 mg/m³ 400 ppm				
規則参照	許容濃度等の勧告 (2021 年度) 産衛誌 63 卷				
設備対策	: 作業所の十分な換気を確保する。				
保護具					
個人用保護具	: 推奨される個人用保護具を着用する。				
呼吸用保護具	: 換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。				
手の保護具	: 保護用手袋				
タイプ	素材	透過	厚さ (mm)	浸透	規格
使い捨て式手袋	ニトリルゴム (NBR) クロロブレンゴム (CR)		0,4 - 0,7		EN 374-2 EN ISO 374
眼の保護具	: 安全メガネ				

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

皮膚及び身体の保護具

: 適切な保護衣を着用する。

環境へのばく露の制限と監視

: 環境への放出を避けること。

その他の情報

: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

スプレーミストを吸入しないこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態

: 液体

外観

: 液体

色

: 乳白色

臭い

: データなし

pH

: データなし

融点

: データなし

凝固点

: < -20 °C

沸点

: データなし

引火点

: データなし

自然発火点

: データなし

分解温度

: データなし

可燃性

: データなし

蒸気圧

: データなし

相対密度

: データなし

密度

: データなし

相対ガス密度

: データなし

溶解度

: 水に可溶。

n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)

: データなし

爆発限界 (vol %)

: データなし

動粘性率

: データなし

粒子特性

: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性

: 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。

化学的安定性

: 通常の条件下では安定。

危険有害反応可能性

: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。

避けるべき条件

: 推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第 7 項参照）。

混触危険物質

: 酸化剤。金属。

危険有害な分解生成物

: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

## 11. 有害性情報

急性毒性 (経口)

: 分類できない

急性毒性 (経皮)

: 分類できない

急性毒性 (吸入)

: 区分に該当しない(分類対象外) (気体)

区分に該当しない(分類対象外) (蒸気)

分類できない (粉じん、ミスト)

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
LD50 経口 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経皮 ラット	≥ 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性経皮毒性)
アルコール、C9-11、エトキシリ化 (68439-46-3)	
LD50 経口 ラット	1378 mg/kg 出典: Thomson Micromedex の企業ソリューション
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg bw/day 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
LD50 経皮 ウサギ	2000 nl/kg 出典: Thomson Micromedex の企業ソリューション
LC50 吸入 - ラット	> 1.6 mg/l air 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 403 (急性吸入毒性)
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、約 1,530 mg/kg、2,370 mg/kg の 2 件の報告 (SIDS (2012) ) があり、区分 4 と区分外とに該当するが、LD50 値の最小値が該当する区分 4 とした。
急性毒性 (経皮)	データ不足のため分類できない。なお、31%水溶液の LD50 値は > 2,000 mg/kg (有効成分換算値として > 600 mg/kg) の報告がある (SIDS (2012) ) 。
急性毒性 (吸入: 気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入: 蒸気)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経口	1530 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性経皮毒性)
2-(2-ブロキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、5,660 mg/kg (ACGIH (7th, 2013)、DFGOT vol. 7 (1996))、5,080 mg/kg (雌)、6,530 mg/kg (雄)、6,560 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、9,600 mg/kg (給餌)、7,300 mg/kg (絶食) (ACGIH (7th, 2013))、9,623 mg/kg (給餌)、7,292 mg/kg (絶食) (PATTY (6th, 2012)、EU-RAR (1999)、ECETOC TR 64 (1995)) との報告に基づき、区分外とした。
急性毒性 (経皮)	ラットの LD50 値として、> 2,000 mg/kg (DFGOT vol. 7 (1996))、ウサギの LD50 値として、2,764 mg/kg (PATTY (6th, 2012)、EU-RAR (1999)、ECETOC TR 64 (1995))、3,000-4,000 mg/kg (DFGOT vol. 7 (1996))、4,000 mg/kg (PATTY (6th, 2012)) との報告に基づき、区分外 (国連分類基準の区分 5) とした。
急性毒性 (吸入: 気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入: 蒸気)	データ不足のため分類できない。

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。ラットに飽和蒸気 (28.8 ppm) を 7 時間ばく露した結果 (4 時間換算値 : 38.1 ppm)、死亡例なしとの報告 (EU-RAR (1999)、ECETOC TR 64 (1995)) があるが、このデータのみでは分類できない。
LD50 経口 ラット	5660 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	2764 mg/kg BW 動物 : ウサギ、動物の性別 : 男性、ガイドライン : OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性) 、95%CL : 2090-3645
リモネン (5989-27-5)	
急性毒性 (経口)	ラットにおける LD50 値 雄 4.4g/kg, 雌 5.1g/kg (CICADs (No. 5, 1998)) に基づき、JIS 分類基準の区分外(国連分類基準の区分 5) とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギにおける LD50 値 >5 g/kg (DFGOT (vol.1, 1991)) に基づき、区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義による液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データなし。
LD50 経口 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物 : ラット、動物の性別 : 女性、ガイドライン : OECD ガイドライン 423 (急性経口毒性-急性毒性クラス法)
LD50 経皮 ウサギ	> 5000 mg/kg 出典: 国立医学図書館
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50=4,384 mg/kg (EPA Pesticides (1995) ) 、4,396 mg/kg (EHC 103 (1990) ) 、4,710 mg/kg (EHC 103 (1990) 、PATTY (6th, 2012) 、SIDS (2002) ) 、5,000 mg/kg (環境省リスク評価第 6 卷 (2006) ) 、5,045 mg/kg (環境省リスク評価第 6 卷 (2006) ) 、5,280 mg/kg (EHC 103 (1990) 、SIDS (2002) ) 、5,300 mg/kg (PATTY (6th, 2012) ) 、5,480 mg/kg (EHC 103 (1990) 、PATTY (6th, 2012) ) 、5,500 mg/kg ( (EHC 103 (1990) 、SIDS (2002) ) 、5,840 mg/kg (PATTY (6th, 2012) 、SIDS (2002) ) に基づき、区分外とした。今回の調査で入手した EPA Pesticides (1995) 、PATTY (6th, 2012) 、環境省リスク初期評価第 6 卷 (2006) の情報を追加し、JIS 分類基準に従い、区分 5 から区分外に変更した。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50=12,870 mg/kg (EHC 103 (1990) , (PATTY (6th, 2012) , (SIDS (2002) ) に基づき、区分外とした。なお、文献の優先度変更により、今回の調査で入手した PATTY (6th, 2012) のデータを根拠データとした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 (4 時間) =68.5 mg/L (27,908 ppmV) (EPA Pesticides (1995) ) 、72.6 mg/L (29,512 ppmV) (EHC 103 (1990) , SIDS (2002) ) に基づき、区分外とした。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度 (53,762 ppmV (25°C) ) の 90%より低いため、分類にはミストを含まないものとして ppmV を単位とする基準値を適用した。なお、今回の調査で入手した EPA Pesticides (1995) のデータを根拠とした。今回の調査で得たより信頼性の高い情報源から分類した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
LD50 経口 ラット	5840 mg/l 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経口	4384 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	16400 mg/kg 出典：ECHA
LD50 経皮	4000 mg/kg
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
急性毒性 (経口)	ラット LD50 値について 5 件の報告がある (890 mg/kg (環境省リスク評価第 6 卷 (2008))、1,700-1,900 mg/kg (DFGOT vol.23 (2007))、2,450 mg/kg (DFGOT vol.23 (2007))、> 2,930 mg/kg (SIDS (2002))、> 10,000 mg/kg (SIDS (2002)) が、890 mg/kg (環境省リスク評価第 6 卷 (2008)) の報告は詳細不明であるため不採用とし、4 件中の 3 件が該当する区分外とした。
急性毒性 (経皮)	ラット LD50 値が > 2,000 mg/kg であり、2,000 mg/kg の投与で死亡、毒性症状がない (SIDS (2002)) との報告より、区分外とした。JIS 分類基準に従い、区分 5 から区分外に変更した。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	> 2930 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
LD50 経皮 ウサギ	> 2000 mg/kg Source: ECHA
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	> 2 mg/l
皮膚腐食性／刺激性	: 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギの OECD TG 404 に準拠した皮膚腐食性試験が多数報告されており、いずれも軽度の刺激性であることから (SIDS (2012)) 区分外とした。
2-(2-ブキシエトキシ)エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
皮膚腐食性／刺激性	本物質 (未希釈) をウサギ又はモルモットに適用した結果、軽度の刺激性がみられたとの報告 (PATTY (6th, 2012)) や、ウサギの皮膚に長期間または反復適用した結果軽度の刺激性がみられたとの記載 (ECETOC TR64 (2005)、BUA 204 (1997)) がある。なお、EU-RAR (1999) は、ウサギ又はラットを用いた経皮への反復投与 (2000mg/kg) で影響がみられなかったことから皮膚刺激性の区分はつかないと判断している (EU-RAR (1999))。詳細は不明であるがヒトに対する原液のパッチテストの結果、何人かに紅斑がみられたとの報告がある (DFGOT vol. 7 (1996))。以上の結果から、区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

リモネン (5989-27-5)	
皮膚腐食性／刺激性	ヒト(パッチテスト)において、刺激性が 72 時間継続し、経皮暴露(2 時間)によって火傷、そう痒、痛み、紫斑発疹がみられた(CICADs (No.5, 1998))。ウサギの試験(OECD TG 404)において、皮膚一次刺激指数が 8 ランク中 3.5 位を示した。以上の結果および EU 分類で R38(区分 2 または 3 相当)である(EU-AnnexI, access on 12. 2008)ことから、区分 2 とした。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
皮膚腐食性／刺激性	EHC 103 (1990) 、PATTY (6th, 2012) 、ECETOC TR66 (1995) のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし又は軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103 (1990) のヒトでのボランティア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さないとの報告から、軽微ないし軽度の刺激性があると考えられ、JIS 分類基準の区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギの閉塞塗布試験で非常に軽度の刺激との記載があり、またヒトに軽度の刺激あり (SIDS (2002) ) との記載がある。List 3 の CERI ハザードデータ集 (1997) を削除し、以上の情報に基づき、JIS 分類基準の区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた眼刺激性/腐食性試験 (OECD TG 405 準拠) が多数報告されており、いずれも中程度の刺激性と評価されているが、虹彩と結膜への影響が 21 日内に回復しなかった (SIDS (2012) ) との記載があることから区分 1 とした。
2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギの眼に本物質 0.1 mL を適用した結果、中等度の眼刺激性が認められたが 14 日以内に回復した (ECETOC TR 64 (1995)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012)) との報告がある。なお、本物質は、EU CLP 分類において「Eye. Irrit. 2 H319」に分類されている (ECHA CL Inventory (Access on June 2015))。中等度の刺激性との記載、及び回復性の記載からガイダンスに従い区分 2A とした。
リモネン (5989-27-5)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギにおいて、刺激性が認められている(CICADs (no.5, 1998))が、このデータだけでは区分が特定できることから、データ不足のため分類できないとした。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	EHC (1990) 、SIDS (2002) 、PATTY (6th, 2012) 、ECETOC TR48 (1998) のウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分 2 とした。

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いたドレイズ試験において、本物質 100 mg を適用 24 時間後で、結膜に軽度の炎症が 6/6 例にみられたが、72 時間後には完全に回復した (SIDS (2002)) との記載より区分 2B とした。
呼吸器感作性	: 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
リモネン (5989-27-5)	
呼吸器感作性	データなし。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	: 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
皮膚感作性	SIDS (2012) には、モルモットを用いた皮膚感作性試験 (マキシマイゼーション試験、ドレイズ法による試験等) の結果が 4 試験あり、3 試験では陰性の結果が出ている。1 試験のみ 20 匹中 4 匹に陽性がみられており、SIDS (2012) では不純物に起因することを指摘している。また、ヒトに対する本物質の感作性は低いとの記載がある。以上の結果に基づき、区分外とした。
2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。なお、モルモットを用いた Maximization test において感作性はみられなかった (ECETOC TR. 64 (1995)、BUA 204 (1997)) との報告や、感作性がないとの試験報告 (EU-RAR (1999)) があるが、結果の詳細等不明であるため分類に用いるには不十分なデータと判断した。情報を精査し区分を変更した。
リモネン (5989-27-5)	
皮膚感作性	ヒト(パッチテスト)において、10-15 分で感作性がみられ (CICADs(No.5,1998))、モルモットによる Maximization test において感作性が認められた(CICADs(No.5,1998))。以上の結果および EU 分類において R43(区分 1相当)(EU-Annex I, accession 12.2008)、DFG にて Sh(MAK/BAT(2007)) であることから、区分 1 とした。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。SIDS (2002) と IUCLID (2000) に、モルモットを用いた試験で陰性とのデータがあるが、SIDS (2002) は限定的なデータとしている。また、ヒトに関しては、SIDS (2002) では、多数の作業者や患者に対して実施されたパッチテストにおいてすべて陰性であったとの結果があるが、本物質が完全に感作性なしとは判断できないとしている。List 3 の CERI ハザードデータ集 (1997) を削除し、入手した情報を再確認した結果に基づき、分類できないとした。
生殖細胞変異原性	: 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。すなわち、in vivo データではなく、in vitro では細菌の復帰突然変異試験で陰性である (IUCLID (2000))。
2-(2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、マウス骨髄細胞の小核試験で陰性 (DFGOT vol. 7 (1996)、EU-RAR (1999)、ACGIH (7th, 2013)、PATTY (6th, 2012))、in vitro では、マウスリンフォーマ試験で弱陽性の結果はあるが、それ以外の試験、すなわち、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、遺伝子突然変異試験、不定期 DNA 合成試験で陰性である (ACGIH (7th, 2013)、DFGOT vol. 7 (1996)、EU-RAR (1999)、PATTY (6th, 2012))。
リモネン (5989-27-5)	
生殖細胞変異原性	体細胞 in vivo 変異原性試験（マウススポット試験）で陰性である(IARC (vol.73, 1999))ことから区分外とした。in vitro 試験では、マウスリンフォーマ試験、CHO 細胞を用いた染色体異常試験、エームス試験にて陰性結果を示した (CICADs (No.5, 1998)), IARC (vol.73, 1999))。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。すなわち、in vivo では、体細胞変異原性試験であるマウスの骨髄細胞を用いる小核試験 (SIDS (2002))、ラットの骨髄細胞を用いる染色体異常試験 (EHC 103 (1990)) で陰性の結果が報告されている。in vitro では、染色体異常試験のデータではなく、細菌を用いる復帰突然変異試験 (SIDS (2002)、EHC 103 (1990))、哺乳類培養細胞を用いる hgprt 遺伝子突然変異試験 (SIDS (2002)) で陰性である。なお、IARC 71 (1999)、環境省リスク評価第6巻 (2008) では変異原性なしと記載している。分類ガイダンスの改訂により区分を変更した。

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
生殖細胞変異原性	分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。In vivo では、マウスの相互転座試験、マウス及びラットの優性致死試験、マウスの特定座位試験、マウス骨髄細胞の小核試験、マウス及びラットの骨髄細胞の染色体異常試験でいずれも陰性（環境省リスク評価第6巻（2008）、SIDS（2002））の報告がある。In vitro では、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験は細胞毒性濃度において陽性知見が認められるものの、細菌の復帰突然変異試験では陰性であり、また、in vitro 染色体異常試験では一部陽性知見が示されている（環境省リスク評価第6巻（2008）、SIDS（2002）、ACGIH（7th, 2001）、NTP DB（2013））。
発がん性	： 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
発がん性	データ不足のため分類できない。
2-(2-ブトキシエトキシ)エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
発がん性	国際機関による分類もされておらず、データ不足のため分類できない。
リモネン (5989-27-5)	
発がん性	IARC で Group3(IARC Vol. 73, 1999)に分類されており、ラット(F344/N)を用いた強制経口投与、生涯試験において、雄でのみ尿細管腺腫がみられ、雌に発がん性は認められなかった(CICADs No.5, 1998)。マウス(B6C3F1)を用いた強制経口投与、生涯試験(IARC vol.73, 1999)において、発がん性は認められなかつた。ラット雄にみられた所見は、種および性依存性のものであると記述がある(CICADs No. 5, 1998)。したがって、ヒトに対する発がん性は疑われないことから区分外とした。
IARC グループ	分類できない
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
発がん性	IARC 71 (1999) でグループ3、ACGIH (7th, 2001) で A4 に分類されていることから、分類できないとした。分類ガイダンスの改訂により区分を変更した。
IARC グループ	分類できない
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
発がん性	IARC でグループ3 (IARC 40 (1987))、ACGIH で A4 (ACGIH (1995)) に分類されていることから、分類できないとした。ガイダンス改訂により分類区分を変更した。
IARC グループ	分類できない
NOAEL (慢性、経口、動物/オス、2年)	25 mg/kg BW 動物: ラット、動物の性別: 雄、結果の備考: その他: 影響の種類: 毒性 (移行情報)
生殖毒性	： 分類できない

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

## コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)

生殖毒性	ラットを用いた経口経路（強制）での発生毒性試験（OECD TG414）において、母動物毒性（死亡（1/21例が妊娠15日に死亡）、異常な体位（13/21）、立毛（2/21）、運動量の減少、体重減少（対照群の最大17%減）、胃の潰瘍（2/21）、粘膜の肥厚（20/21））が3,300 mg/kg/day（活性成分950 mg/kg/day相当）でみられ、この用量で吸收胚の増加、生存胎児の減少、胎児体重の減少がみられた。なお、この下の用量である990 mg/kg/day（活性成分286 mg/kg/day相当）では母動物毒性はみられるが児の発生に影響はみられていない（SIDS（2012））。以上のように母動物に影響がみられる用量においてのみ胎児に影響がみられたことから区分2とした。なお、生殖能に関するデータは得られていない。
NOAEL(動物/メス、F0/P)	300 mg/kg BW 動物: ネズミ、動物の性別: メス、ガイドライン: その他:
NOAEL(動物/メス、F1)	1000 mg/kg BW 動物: ネズミ、動物の性別: メス、ガイドライン: その他:

## 2-(2-ブキシエトキシ)エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)

生殖毒性	ヒトの生殖影響に関する情報はない。実験動物では、本物質をラットの雌雄いずれかに交配前から強制経口投与し、非ばく露のペアーと交配させた1世代試験において、1,000 mg/kg/dayまでの用量で、雌雄親動物の繁殖能への有害影響はみられなかつたが、1,000 mg/kg/dayのF1出生児に哺育期後期の体重増加抑制がみられた(EU-RAR(1999))。また、ラットに交配前13週間、及び雌は妊娠20日まで、2,000 mg/kg/dayを経皮適用した1世代試験でも雌雄ともに繁殖能への有害影響は認められなかつた(EU-RAR(1999)、ACGIH(7th, 2013))。一方、発生毒性影響としては、妊娠雌ラットの器官形成期(妊娠6-15日)に強制経口投与した発生毒性試験において、母動物の25%が死亡する高用量(2,050 mg/kg/day)まで投与しても、新生児の出生数、生後3日までの生存率、体重推移に影響はみられなかつた(奇形性の有無は評価対象外)との記述、並びに妊娠雌ラットの全妊娠期間を通して混餌投与した奇形性試験では、母動物に体重増加抑制がみられる用量でも、出生前後の発生影響はみられなかつたとの記述がある(EU-RAR(1999)、ACGIH(7th, 2013))。また、妊娠ウサギの器官形成期(妊娠8-19日)に閉塞経皮適用した奇形性試験において、母動物に統計的に有意ではないが体重増加抑制の傾向がみられ、皮膚刺激性が観察される用量まで投与したが、胎児には奇形も含めて発生毒性はみられなかつたとの記述がある(EU-RAR(1999)、ACGIH(7th, 2013))。以上、実験動物では経口及び経皮の2経路で、親動物の繁殖能への有害影響、及び奇形を含む発生毒性影響は概ね生じないと考えられるが、経口経路のラット1世代試験では高用量群の出生児に哺育期間中の成長抑制を示唆する結果も得られており、「区分外」とするにはヒトの知見も含めてデータが不十分と判断された。よって、本項は「分類できない」とした。
NOAEL(動物/オス、F0/P)	> 452 mg/kg BW 動物: ネズミ、動物の性別: オス、ガイドライン: その他:
NOAEL(動物/メス、F0/P)	> 470 mg/kg BW 動物: ネズミ、動物の性別: メス、ガイドライン: その他:

## リモネン (5989-27-5)

生殖毒性	ラットおよびマウスを用いた奇形性試験において、母獣に一般毒性がみられる用量で胎児の臓器(胸腺、脾臓、卵巣)重量の減少、骨格変異(腰肋、肋骨の癒合)、化骨遅延がみられた(CICADs (No.5, 1998))が程度が不明であり、親の生殖能力に対する影響の情報がないため分類できない。
------	---

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

リモネン (5989-27-5)	
NOAEL(動物/メス、F0/P)	600 mg/kg BW 動物: ネズミ、動物の性別: メス、ガイドライン: その他:
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
生殖毒性	ラットの経口投与による2世代試験では生殖発生毒性は認められなかったとの記述がある (IARC 71 (1999)、EHC 103 (1990)) が、このデータの詳細は明らかではない。比較的新しいラットの経口投与による2世代試験では親動物に一般毒性影響（肝臓及び腎臓の組織変化を伴う重量増加）が認められる用量で、雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られたと記述されている (PATTY (6th, 2012))、SIDS (2002))。雄親動物における交尾率の低下と新生児への有害影響は、親動物への一般毒性による二次的・非特異的な影響とは考えがたい。また、妊娠雌ラットに吸入暴露した発生毒性試験において、胎児には軽微な影響（体重低値、骨格変異）が見られたのみで、奇形の発生はなかったが、母動物毒性（不安定歩行、嗜眠、摂餌量及び体重増加量減少）がみられる用量で着床不全、全胚吸収など生殖毒性影響がみられている (PATTY (6th, 2012))。以上の結果、分類ガイドラインに従い区分2に分類した。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
生殖毒性	マウスに混餌投与した3世代試験では各世代ともに生殖発生毒性は認められなかったが、ラットに混餌投与した2世代試験で、F0において一般毒性がみられない用量で同腹児数の減少が認められた (SIDS (2002))。妊娠マウス及びラットへの経口投与では発生毒性は生じないが、母動物に顕著な毒性（死亡率10%以上）がみられる用量で胎児に骨化遅延がみられたに過ぎない (SIDS (2002))。したがって、本物質は発生毒性を生じないと考えられた。生殖能に対する影響については、ラットで認められたもののマウスでは認められていないことから、区分2とした。なお、ラットの2世代試験のデータについて、旧分類ではList 3の情報源を基にデータを採用し分類に用いたが、今回の分類にはSIDSのデータを採用し、最新ガイドラインにより分類したため分類結果が変わった。また、旧分類の分類根拠とされている無眼球症、小眼球症についての記載は、IARC 40 (1986)において否定されているため削除した。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットの経口投与試験において、ガイドラインの範囲外の用量 (5-10 g/kg) で回復性の自発運動低下、運動協調性欠如、姿勢異常、立毛がみられた (SIDS (2012)) ため区分3（麻酔作用）とした。

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

## 2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトに関する情報はない。実験動物では、ウサギへの区分 2 相当の 2,000 mg/kg 経口投与で死亡が発生し、1,060 mg/kg で腹臥位、一過性の無緊張、脱力状態、呼吸促進、麻酔症状、腎臓傷害がみられた (DFGOT vol. 7 (1996))。また、「本物質は経口及び経皮経路で急性毒性は弱い。」との情報、「マウス、ラットの経口投与で、死亡前の毒性徴候は活動低下、努力呼吸、食欲低下、衰弱、振戦」であるが、その用量は区分 2 を超えること、「ウサギの経皮ばく露で、食欲低下、腎臓肥大、腎孟の褪色、胸腺における浮腫や出血性傷害」がみられたが、その用量は区分 2 を超える (以上、EU-RAR (1999))。以上より、ウサギの経皮ばく露で腎臓への影響が考えられるが、区分 2 を超える用量範囲のため、腎臓を区分対象としなかった。その他の所見は、麻酔作用によるものであるため、区分 3(麻酔作用)とした。情報を確認し、旧分類の区分を見直した。
リモネン (5989-27-5)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒト 8 人による 2 時間吸入試験(10, 225, 450 mg/m <sup>3</sup> )において、高濃度群で軽微な肺活量の減退が見られたのみで中枢神経系に関連する異常は見られなかつた (CICAD (No.5, 1998))。ボランティアによる経口試験(20g)において下痢、痛みを伴う収縮(painful constriction)およびタンパク尿が認められたが、肝臓(総タンパク、ビリルビン、コレステロール、酵素群)に異常は見られなかつた (CICAD (No.5, 1998))。ラットの強制経口試験(0-1200mg/kg bw)において、肝トリグリセリド、microsomal proteins、肝チトクローム b5 および薬物代謝酵素類に異常は見られなかつた(JECFA (1993))。以上の結果、ヒトおよび動物において重大な変化が認められなかつたことから経口、吸入経路では区分外相当であるが、経皮暴露のデータはなく分類できないとした。ラット(Sprague-Dawley)の単回投与試験(雌雄, 0-409mg/kg)にて、409mg/kg 群で硝子滴が 10 を示した(対象群; 3)が、本物質と α <sub>2u</sub> グロブリンの関連性が記述されていることから、種および性依存性と判断し分類根拠には採用しなかつた。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	SIDS (2002)、EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第 6 卷 (2005) の記述から、本物質はヒトで急性中毒として中枢神経抑制（嗜睡、昏睡、呼吸抑制など）、消化管への刺激性（吐き気、嘔吐）、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また、吸入ばく露により鼻、喉への刺激性（咳、咽頭痛）を示す (EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第 6 卷 (2005) ) ことから、気道刺激性を有する。以上より、区分 1 (中枢神経系、全身毒性)、及び区分 3 (気道刺激性) に分類した。なお、旧分類では区分 1 (腎臓) を採用したが、根拠となるデータは List 3 の情報源からのヒトの症例報告によるもので、原著は古く、List 1 及び 2 の複数の情報源では採用されておらず、標的臓器としての腎臓は不適切と判断し削除した。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本物質 4 g 又は 80 g を摂取した女性 2 人に上部胃痙攣、吐気、嘔吐、疲労感、神経症状が見られたとの記述 (SIDS (2002)、ACGIH (7th, 2001) )、ヒトが経口摂取すると腹痛や錯乱、眩暈、吐気、嘔吐を生じるとの記述 (環境省リスク評価第 6 卷 (2008) ) から、区分 1 (神経系) に分類した。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 分類できない

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
LOAEL (経口、ラット、90 日)	25 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性試験)
NOAEL (経口、ラット、90 日)	> 225 mg/kg BW/日 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性)
アルコール、C9-11、エトキシリ化 (68439-46-3)	
NOAEL (経口、ラット、90 日)	≥ 500 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性)
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットに 90 日間強制経口投与した試験において、区分 2 のガイダンス値範囲を上回る用量 (150 mg/kg/day) で、前胃の組織変化 (雌雄) が、また最高用量 (300 mg/kg/day) で、尿潜血陽性例の頻度増加 (雄) がみられたのみである (SIDS (2012))。よって、経口経路では区分外相当であるが、他の経路での毒性情報がなく、データ不足のため分類できないとした。
2-(2-ブキシエトキシ)エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトに関する情報はない。実験動物では、ラットを用いた 5 週間吸入毒性試験において、117 mg/m <sup>3</sup> (ガイダンス値換算: 0.0325 mg/L) で肝臓の相対重量増加、肝細胞脂肪変性がみられている (EU-RAR (2000))。また、ラットを用いた 2 週間吸入毒性試験において、100 mg/m <sup>3</sup> (ガイダンス値換算: 0.011 mg/L) で血管周囲及び気管支周囲の顆粒球白血球の細胞浸潤、細気管支化、肺重量増加がみられている (EU-RAR (2000))。これらはいずれも区分 1 の範囲でみられた。なお、血液系 (赤血球) への影響として溶血がみられたが区分 2 の範囲を超える用量であった。ラットを用いた 6 週間強制経口投与毒性試験において、溶血性貧血、肝臓重量増加、前胃の角化亢進・棘細胞増生がみられ (EU-RAR (2000)、PATTY (6th, 2012)、DFGOT vol. 7 (1996))、13 週間飲水投与毒性試験において溶血性貧血、肝臓重量増加がみられた (PATTY (6th, 2012))。これらは区分 2 の範囲を超える用量であった。ラットを用いた 13 週間経皮投与毒性試験において、全身影響はみられていない (EU-RAR (2000)、PATTY (6th, 2012))。したがって、区分 1 (呼吸器、肝臓) とした。旧分類では吸入経路での毒性影響が明確でないことから分類できないとなっていた。しかし、得られた吸入経路の情報から分類が可能であった。
NOAEL (経口、ラット、90 日)	250 mg/kg BW
NOAEL (経皮、ラット/ウサギ、90 日)	< 200 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: その他:、ガイドライン: OECD ガイドライン 411 (亜慢性経皮毒性: 90 日間試験)

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

リモネン (5989-27-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットによる 16 日間強制経口試験(0-6600mg/kg (90 日換算:73-1173mg/kg))において 1650mg/kg 群およびそれ以下の投与群において毒性症状および本物質に起因する組織学的变化は認められなかった(JECFA (1993))。ラットによる 30 日間経口試験(0-2770mg/kg (90 日補正: 92-923mg/kg))においては、雄の腎臓質の外側部位に顆粒円柱が認められた以外に臓器重量、尿、血液および生化学検査において变化は認められなかった(JECFA (1993))。以上の結果から経口経路では区分外相当であるが、経皮、吸入暴露のデータはなく分類できないとした。なお、ラット雄で見られた所見は、 $\alpha$ 2u グロブリンの影響が示唆されるため分類根拠には採用しなかった。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットに本物質の蒸気を 4 ヶ月間吸入ばく露試験で、100 mg/m <sup>3</sup> (ガイダンス値換算濃度: 0.067 mg/L/6 hr) 以上で白血球数の減少が見られ、500 mg/m <sup>3</sup> (ガイダンス値換算濃度: 0.33 mg/L/6 hr) 群では呼吸器 (肺、気管支) 、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた (EHC 103 (1990) )との記述から、標的臓器は血液系、呼吸器、肝臓、脾臓であると判断し、血液は区分 1、呼吸器、肝臓、脾臓は区分 2 とした。なお、吸入又は経口経路による動物試験において、区分 2 のガイダンス値を上回る用量で、麻酔作用、血液系への影響がみられている (SIDS (2002) 、PATTY (6th, 2012) )。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトについての報告はなかった。マウスに 4 週間経皮投与した試験において、区分 2 のガイダンス値内の投与量 (45 mg/kg/day (90 日換算値) ) で肺のうつ血、腫大、肺胞上皮細胞の壊死、変性が認められた (SIDS (2002) )。また、ラットに混餌投与 (投与期間: 雄は交配前 5 週間及び交配期間、雌はさらに F1 児の離乳まで) した繁殖試験において、区分 2 のガイダンス値内の投与量 (100 mg/kg/day) で肝臓の組織変化 (小葉中心性肝細胞肥大、好酸性化、胆管増生) 及び甲状腺機能亢進が見られた (SIDS (2002) 、環境省リスク評価第 6 卷 (2008) )との記述がある。これらの所見のうち、甲状腺機能亢進は病理組織像の詳細及び程度が明らかでなく、甲状腺を標的臓器とするには証拠が十分ではないと判断した。以上の結果、区分 2 (肺、肝臓) とした。
LOAEL (経口、ラット、90 日)	100 mg/kg BW 動物: ラット、動物の性別: 雄
NOAEL (経口、ラット、90 日)	25 mg/kg BW 動物: ラット、動物の性別: 雄
誤えん有害性	: 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。なお、HSDB (Access on June 2015) に収載された数値データより、動粘性率計算値は 0.069 mm <sup>2</sup> /sec (20°C) (粘性率: 0.0649 mPa · s; 密度 (比重) : 0.9536) と算出される。
動粘性率	6.794 mm <sup>2</sup> /s
リモネン (5989-27-5)	
誤えん有害性	データなし。

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。旧分類のデータが確認できることと、分類ガイダンスの変更により分類を見直した。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

生態系 - 全般	: 水生生物に有害。
水生環境有害性 短期（急性）	: 水生生物に有害
水生環境有害性 長期（慢性）	: 区分に該当しない

ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
LC50 - 魚 [1]	7.1 mg/l 試験生物（種）: Danio rerio (旧称: Brachydanio rerio)
EC50 - 甲殻類 [1]	7.2 mg/l 試験生物（種）: Daphnia magna
EC50 - 甲殻類 [2]	7.4 mg/l 試験生物（種）: Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	27 mg/l 試験生物（種）: Desmodesmus subspicatus (旧称: Scenedesmus subspicatus)
EC50 72h - 藻類 [2]	27.7 mg/l 試験生物（種）: Desmodesmus subspicatus (旧称: Scenedesmus subspicatus)
NOEC (慢性)	0.27 mg/l 試験生物（種）: Daphnia magna 期間: 「21日」
NOEC 魚 慢性	0.14 mg/l 試験生物（種）: Oncorhynchus mykiss (旧名: Salmo gairdneri) 期間: 「28日」

アルコール、C9-11、エトキシリ化 (68439-46-3)	
LC50 - 魚 [1]	5 – 7 mg/l 試験生物（種）: Oncorhynchus mykiss (旧名: Salmo gairdneri)
EC50 - 甲殻類 [1]	2.5 mg/l 試験生物（種）: Daphnia magna
EC50 96h - 藻類 [1]	1.4 mg/l 試験生物（種）: Pseudokirchneriella subcapitata (以前の名前: Raphidocelis subcapitata、Selenastrum capricornutum)

コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類 (Scenedesmus subspicatus) の 72 時間 ErC50 = ca. 1.3 mg/L (SIDS, 2012) から、区分 2 とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	急速分解性があり (BOD による分解度: 86-93% (SIDS, 2012))、藻類 (Scenedesmus subspicatus) の 72 時間 NOEC = ca. 0.09 mg/L (SIDS, 2012) であることから、区分 2 とした。
LC50 - 魚 [1]	2 mg/l 試験生物（種）: Danio rerio (旧名: Brachydanio rerio)
ErC50 藻類	1.3 mg/l
NOEC 藻類 慢性	0.09 mg/l

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

<b>2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)</b>	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類（セネデスマス）96 時間 EC50 > 100 mg/L、甲殻類（オオミジンコ）48 時間 EC50 > 100 mg/L、魚類（ブルーギル）96 時間 LC50 = 1300 mg/L（いずれも EU-RAR, 1999）であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。難水溶性ではなく（水溶解度 = 1000000 mg/L、PHYSPROP Database 2009）、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	1300 mg/l 試験生物（種） : Lepomismacrochirus
EC50 - 甲殻類 [1]	> 100 mg/l 試験生物（種） : Lepomismacrochirus
EC50 96h - 藻類 [1]	> 100 mg/l 試験生物（種） : Desmodesmus subspicatus (旧称 : Scenedesmus subspicatus)
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.56
<b>リモネン (5989-27-5)</b>	
水生環境有害性 短期（急性）	甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 EC50 = 0.421 mg/L (NICNAS, 2002) から、区分 1 とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	急性毒性区分 1 であり、急速分解性でない (BIOWIN) ことから、区分 1 とした。
LC50 - 魚 [1]	720 µg/l 試験生物（種） : Pimephales promelas
LC50 - 魚 [2]	702 µg/l 試験生物（種） : Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	0.36 mg/l 試験生物（種） : Daphnia magna
EC50 - 甲殻類 [2]	0.51 mg/l 試験生物（種） : Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	約 8 mg/l 試験生物（種） : Desmodesmus subspicatus (旧称 : Scenedesmus subspicatus)
EC50 72h - 藻類 [2]	0.214 mg/l 試験生物（種） : Raphidocelis subcapitata (旧名 : Pseudokirchneriella subcapitata, Selenastrum capricornutum)
NOEC (慢性)	0.115 mg/l 試験生物（種） : その他：淡水無脊椎動物の場合、種にはしばしば Daphniamagna または Daphniapulex が含まれます。期間 : 「16 日」
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.38 出典: ECHA 登録物質
<b>イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)</b>	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) 72 時間 ErC50 > 1000 mg/L、甲殻類（オオミジンコ）48 時間 EC50 > 1000 mg/L、魚類（メダカ）96 時間 LC50 > 100 mg/L（いずれも環境庁生態影響試験, 1997）であることから、区分外とした。

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
水生環境有害性 長期（慢性）	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり（BODによる分解度：86%（既存点検, 1993））、甲殻類（オオミジンコ）の21日間 NOEC > 100 mg/L（環境庁生態影響試験（1997）、環境省リスク評価（2008））であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急性毒性が区分外であり、難水溶性ではない（In water, infinitely soluble at 25 °C, HSDB, 2013）ことから区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	10000 mg/l 試験生物（種）: Pimephales promelas
LC50 - 魚 [2]	9640 mg/l 試験生物（種）: Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	3025 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典: ICSC
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
水生環境有害性 短期（急性）	甲殻類（オオミジンコ）による48時間 EC50=0.84 mg/L（環境庁生態影響試験, 1999; 環境省リスク評価第6巻, 2008）であることから、区分1とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	急速分解性がなく（BODによる分解度：4.5%（既存点検, 1979））、魚類（メダカ）のELS NOEC = 0.053 mg/L（環境省生態影響試験, 2007）であることから、区分1とした。
LC50 - 魚 [1]	> 0.57 mg/l 試験生物（種）: ダニオ・レリオ（旧名: ゼブラフィッシュ）
EC50 - 甲殻類 [1]	0.48 mg/l 試験生物（種）: オオミジンコ
EC50 72h - 藻類 [1]	> 0.4 mg/l 試験生物（種）: Desmodesmus subspicatus（旧名: Scenedesmus subspicatus）
LOEC (慢性)	1 mg/l 試験生物（種）: オオミジンコ 期間: '21日'
NOEC (慢性)	0.023 mg/l 試験生物（種）: オオミジンコ 期間: '21日'
NOEC 魚 慢性	0.053 mg/l 試験生物（種）: Oryzias latipes 期間: '42日'
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.1 出典: HSDB
残留性・分解性	
iCLEAN - Interior Cleaner	
残留性・分解性	急速分解性でない
ラウレス-6カルボン酸ナトリウム (33939-64-9)	
残留性・分解性	急速分解性でない
ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
残留性・分解性	急速分解性でない
アルコール、C9-11、エトキシリ化 (68439-46-3)	
残留性・分解性	急速分解性でない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
残留性・分解性	急速分解性

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
残留性・分解性	急速分解性でない
<b>リモネン (5989-27-5)</b>	
残留性・分解性	急速分解性でない
<b>イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)</b>	
残留性・分解性	急速分解性
<b>ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)</b>	
残留性・分解性	急速分解性でない

## 生体蓄積性

iCLEAN - Interior Cleaner	
生体蓄積性	データなし
2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.56
<b>リモネン (5989-27-5)</b>	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.38 出典: ECHA 登録物質
<b>イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)</b>	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典: ICSC
<b>ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)</b>	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.1 出典: HSDB

## 土壤中の移動性

iCLEAN - Interior Cleaner	
土壤中の移動性	データなし
2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.56
<b>リモネン (5989-27-5)</b>	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.38 出典: ECHA 登録物質
<b>イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)</b>	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典: ICSC
<b>ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)</b>	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.1 出典: HSDB

## オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

## 13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分	: 内容物／容器を地方、地域、国内の法令や国際的法令に順守した危険廃棄物又は特別廃棄物の収集場所廃棄すること。 環境への放出を避けること。 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
廃棄方法	: 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物／容器を廃棄する。
残余廃棄物	: 環境への放出を避けること。
地域の廃棄規則	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
推奨下水処理	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
追加情報	: 空の容器を再利用しない。

## 14. 輸送上の注意

UN RTDG に準ずる

### 国際規制

#### 国連勧告(UN RTDG)

国連番号(UN RTDG)	: 非該当
正品名 (UN RTDG)	: 非該当
容器等級(UN RTDG)	: 非該当
輸送危険物分類 (UN RTDG)	: 非該当

#### MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

### 国内規制

その他の情報	: 補足情報なし
--------	----------

## 15. 適用法令

### 国内法令

化審法	: 優先評価化学物質（法第2条第5項）
労働安全衛生法	: 作業環境評価基準（法第65条の2第1項） 危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号） 【改正後 令和7年4月1日以降】 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号、第3号別表第9） (3-アミノプロパン-1-イル) (カルボキシメチル) ジメチルアンモニウムのN-ココアシル誘導体内部塩 (5%未満) d-リモネン (5%未満) 腐食性液体（労働安全衛生規則第326条）
	特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者（法第66条第2項、施行令第22条第1項）
化学兵器禁止法	: 有機化学物質（法第29条1、施行令第4条1）
水質汚濁防止法	: 有害物質（法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条） 指定物質（法第2条第4項、施行令第3条の3）
消防法	: 指定可燃物、可燃性固体類（法第9条の4、危険物令第1条の12・別表第4）

# 安全データシート

iCLEAN - Interior Cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

大気汚染防止法	: 挥発性有機化合物（法第2条第4項）（環境省から都道府県への通達）
海洋汚染防止法	: 油性混合物（施行規則第2条の2） 有害でない物質（施行令別表第1の2） 有害液体物質（X類物質）・油性混合物（施行令別表第1第1号イ（81）） 有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1） 有害液体物質（Z類物質）（施行令別表第1） 有害液体物質（X類同等の物質）（環境省告示第148号第1号） 有害液体物質（Y類同等の物質）（環境省告示第148号第2号）
外国為替及び外国貿易法	: 輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」 輸出貿易管理令別表第1の16の項 輸出貿易管理令別表第2（輸出の承認）
特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法）	: 特定有害廃棄物（法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号）
下水道法	: 水質基準物質（法第12条の2第2項、施行令第9条の4）
労働基準法	: 疾病化学物質（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1）

## 16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わざい  
かなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではな  
いことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わ  
ず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シ  
ートに記載されている情報が適用されないことがある。